令和７年度第４回白河市行政改革推進委員会（要旨）

日時	令和７年１１月６日（木）１４時３０分～１６時１５分
場所	市役所本庁舎　５０１会議室
出席者	委員７名 小林 知二委員長、和知 玲子委員（職務代理者）、長倉 智和委員、十文字 由紀子委員、鈴木 富幸委員、井上 竜一委員、金内 貴弘委員
事務局	４名 室部長、遠藤課長、大平係長、深谷主査
内容	１　開会 ２　委員長挨拶 ３　議事 **（１） 白河市第３次行政経営改革プラン（案）について** 【事務局より説明】 【質　疑】 《プランの実行計画と進捗管理について》 ○委員 プラン案には多くの取り組み項目が挙げられているが、実行計画に移す際、３ヵ年で具体的に何を実施するのかを明確にし、進捗管理できる形にする必要があるのではないか。 ○事務局 今回は取り組み項目ごとに実行計画を作成しPDCAサイクルを行う。 行政経営課が各課と協議し、実効性のある計画を作成する。策定した実行計画は来年度初頭の委員会で説明し、進捗についてご意見をいただきながら進めていきたい。 《観光振興と財源確保について》 ○委員 財政力確保の観点から、観光客に小峰城三重櫓や駐車場が「なぜ無料なのか」とよく言われる。適切な有料化を検討してはどうか。

	○事務局 　既存施設の有料化は、施設の老朽化に加え、サービス向上とのバランスにおいて難しい課題である。今後は施設の価値を適正評価し、サービス提供と応分の費用負担をいただく考え方で検討したい。 ○委員 　観光客から「食事場所や土産物屋がない」との声が非常に多い。白河駅周辺もバスで食事ができるところはない。観光ステーションも箱菓子のような土産の取り扱いがない。 ○事務局 　看板の件は、会議後すぐに担当課に伝え、早急に修正するよう話をする。観光ステーションのあり方は庁内で検討中であり、お土産スペースの拡大なども含め見直しをする予定である。 ○委員 　お土産や食事場所の不足は昔からの課題。テレビ PR 等で今後観光客が増えた際に、課題が再燃するのではないかと懸念される。 ○委員 　えきかふぇが閉鎖されたという話を聞いたが、そのスペースは何か利用する計画はあるのか。 　閉鎖されたスペースを、お土産販売所として活用するなど、今後の利用計画を検討してはどうか。 ○事務局 　閉鎖していると人が集まるスペースが少なくなるため、それを踏まえ施設を有機的に使えるよう、どのような形が望ましいのかを今検討している状況である。 ○委員 　小峰城、南湖、白河の関などを結ぶ周遊バスの運行など、観光客の動線を意識した全体的な観光計画が必要。 　計画を考えるにあたっては、民間の企画力をもっと活用すべきではないか。 ○事務局 　市のノウハウや財源の限界もあるため、民間活用は有効な選択肢とし

	て議論していきたい。 ○委員 新白河駅で新幹線を乗り換える団体の観光客を、市内の観光や消費に誘導する施策を検討すべきではないか。 ○委員 大河ドラマ関連のパンフレット（パート1）が大量に余剰在庫となっている一方、新しいパンフレット（パート2）が少ない状況。需要予測の見通しの甘さや、タイムリーな情報発信に課題がある。 《イベントの連携・開催時期について》 ○委員 同日に複数のイベントが重なるのは、集客の観点からもったいない。関係者間で日程調整など連携が必要ではないか。 ○委員 日曜日開催の踊り流しについて、企業参加者が多いため「土曜開催にしてほしい」という声をよく聞く。日曜日だと踊った後に市内で飲食しにくく、経済効果の点でも検討が必要ではないか。 ○委員 お祭りなどのイベント来場者に対し、アンケートを実施し、開催日や内容に関する意見を収集してはどうか。 ○事務局 従来は日曜が最も参加しやすいとされてきたが、土曜や金曜夜の方が参加しやすいという意見もある。担当課に開催日のアンケート調査による意見収集など検討できないか伝えたい。 《熊対策について》 ○委員 熊の出没が全国的に問題となり、猟友会の高齢化も進む中、市の対策（担い手確保など）はどうなっているのか。 ○事務局 熊対策は急務であり、対策計画を庁内で検討中である。 現在は、農作物の被害防止という観点で農林整備課が対応しているが、

	市街地での発生も想定し、組織体制（担当部署）についても内部で検討している。 **（2）第２次行政経営改革プランの重点戦略進行管理シートの中間報告（令和７年度分）について** 【事務局より説明】 【質　疑】 《管理シートの評価・様式について》 ○委員 第３次プランのシートでは、「一部実施」と評価した場合、何が未実施なのか具体的に分かるよう記載方法を改善すべきではないか。 ○事務局 現行シートは分かりやすさに課題があった。第３次プランでは、取り組み項目ごとに実施状況が分かるような形を検討する。 《情報発信（LINE、HP）について》 ○委員 小峰城歴史館など文化施設の無料開放日（11月３日など）が、市民に十分に周知されていない。 ○委員 市のLINEについて、友達登録者数に対し、ブロックされている実数を把握しているか。また、市ホームページのイベントカレンダーに行政以外のイベント情報が少なく、網羅性が低いと感じる。 ○事務局 LINEのブロック数は、担当課にて把握している。ホームページへの情報集約は、関係団体の仕組みがバラバラで難しい面があるが、課題と認識している。 《公共施設の老朽化・統廃合について》 ○委員 築30～60年の施設が78%とのことだが 、耐用年数を超えた施設の延命措置（修繕）は、どのような基準（法律や審査）で行うのか。

	○事務局 　法律的な年数の縛りはなく、問題は建物本体より水回りなど設備の老朽化である。大規模改修には費用がかかるため計画性が必要となる。 ○事務局 　行政施設は、利用者がいる限り統廃合や集約は丁寧な説明が必要で、コンセンサス形成が難しいのが実態である。 ○委員 　人口減少に伴うサービス低下は免れないことを、市民にもっと明確に伝えるべきではないか。 ○事務局 　財政が健全なときに議論できれば一番理想ではある。財政等が大変な状況にならないと意見がまとまらないという風にならないように、早い段階からやはり１つ１つ丁寧に話をしなくてはならないと考えている。 　いきなり使用料があがる、施設を壊すとなると、市民が混乱するので、それをどうやって行政から語りかけるかが一番問題である。 　複合施設への中央公民館、保健センターの機能移転は決まっているが、元の建物が廃止・解体されなければ施設数の削減には繋がらず、今後の利活用がポイントとなる。 ○委員 　廃校跡地などを宅地として安く提供し、西郷村のように若者の定住・人口増に繋げるような戦略的な土地利用を検討すべきはないか。 ○事務局 　戦略的な土地利用は有効だが、採算性や既存コミュニティとの関係など課題もある。白河市は、西郷村との比較で更地が少ないことも背景にある。 ○委員 　表郷、大信、東にある図書館の分館について、利用状況を分析し、将来的な人員配置や施設の集約を検討する必要があるのではないか。 ○事務局 　図書館は相互貸借の仕組みも機能しており、市民に経常的に利用されている。健全経営で維持していく方針である。

	《消防団の担い手不足について》 〇委員 　消防団の担い手不足が深刻で、集落単位での維持が困難になっている。複数の地区での統合や屯所の集約はできないか。 〇事務局 　合理的に考えれば統合だが、合意形成が非常に難しく、東地区でも過去にまとまらなかった経緯がある。 　また、団員を減らすと水害時等の対応力低下も懸念される。屯所や車両の配置をめぐって地域間でもめることもあり、話し合いが重要である。 **(3) その他** 　事務局より、新プラン（案）は、後日、委員長及び職務代理者から市長へ答申する。その後、庁内調整を経て実行計画を策定し、委員へ送付する旨説明。 　次年度の委員会スケジュールには、委員長と相談の上、後日連絡する旨を説明。 ４　閉　　会